

# 所弓便

## 第15号

NPO法人所沢市弓道連盟  
会員 252名

4月25日に開催された埼玉県弓道連盟評議委員会において、所沢市弓道連盟参与本橋民夫先生が埼玉県弓道連盟会長に選任されました。

60年余の歴史を持つ当連盟にとっても初めての慶事であり誠に誇らしいことです。

本橋新会長の益々のご活躍を祈念してお祝いの言葉を述べるものです。

会長 新家 透

### ∞ 各部報告 ∞

#### 【総務部】

##### 所弓連会員数

平成27年4月30日現在会員数は252名です。

##### 新会員

26年11月以降入会された会員の皆さんです。  
奈須祥生 前澤 朋子 伊藤 愛 中村 拓  
新田真由美 瀬戸菜央 沖田純子

##### 昇格・昇段

平成26年12月1日以降27年4月末までの昇格・昇段者の皆さんです。

錬士 山口正彦

四段 鈴木慎一

三段 長谷川昌史

二段 瀧島広子 渡辺美枝子

初段 工藤由紀 細川和子

#### 平成26年度所沢市体育協会賞

次の方々の受賞がありました。おめでとうございます

います。表彰式は3月7日市民体育館サブアリーナにて行われました。

所沢市体育協会功労賞

永島英男

所沢市体育協会優秀選手賞

スポ少 渡邊乃恵

青山恭子

所弓連 下田 徹 本橋民夫 粕谷吉一  
中村徳海

所沢市体育協会優秀団体賞

所弓連C 澤田靖子 中村徳海 下田 徹

所弓連L 目黒靖彦 平山夏子 下田 徹

#### 部長会・常任委員会・理事会・総会

1月10日

第4回部長会：第2回常任委員会について

1月25日

第2回常任委員会（参加27名）：神社道場建て替えに関する件ほか

3月1日

臨時部長会：神社道場建て替え業者内定等について

3月28日

第2回理事会：常任委員会及び総会資料の検討

4月11日

第3回常任委員会（参加27名）：総会資料の検討

4月18日

27年第1回通常総会（出席53名（委任状116名））  
(来賓)

## 所沢市弓道連盟顧問

所沢市長 藤本正人様

## 所沢市弓道連盟顧問

所沢市議会議員 秋田 孝様

来賓の皆様からご祝辞をいただきました。

会長から神社道場建て替えに関して来賓お二人の多大なご協力に深謝する答辞がありました。



(藤本所沢市長の祝辞)

## (会長挨拶)

NPO法人となって初めての総会を開催する。今回提出する議案は、NPO法人役員選任などいずれも重要な内容があり皆さんの慎重審議をお願いする。

なお、会員の皆様にはこの場を借りてもっと所弓連に関心を持ち積極的に会の活動に関与して頂く事をお願いしたい。

## (議事内容)

議長に選出された草賀相談役の進行のもと“平成27・28年度役員選任の件”など決議事項5議案はすべて賛成多数で可決されました。

さらに報告事項として神社道場建て替え関係について会長からの説明などがありました。

## 神社道場メンテナンス

12月21日

大掃除・矢道芝刈り

## 【指導部】

## 定期講習会

平成26年4月から平成27年3月末までの講習会受講者数

橋田教室（橋田榮次先生 草賀 淳先生）

（毎月第1木曜日、第3土曜日）

受講者延 234名

水曜講習会（見原重信先生）

（毎月第4水曜日）

受講者延 183名

## 寒稽古

1月5日～9日（5日間）

市弓道場 延71名

市武道館 延53名

## 所弓連指導者講習会

2月8日武道館において指導者講習会開催

講師 草賀 淳先生 永島英男先生

講習内容 持ち的射礼 一つの射礼 射技指導

参加者14名

## 初心者教室

所沢市生涯学習情報誌「翔びたつひろば」に27年度初心者弓道教室案内を掲載しました。

5月23日～6月27日（全6回）

毎週土曜日13:30～16:30

∞ 投稿(1) ∞  
六段を受審して

目黒靖彦

昨年10月31日（金）に行われた定期中央審査（東京）で、六段合格を頂きました。

その日は会社に休日出社の振替を出して受審しました。帰宅が毎晩の様に日付変更で、その日の睡眠も2時間余しか取れず、妻の運転で会場に向かいました。

午前中は学科試験以外、控室で仮眠を取ったり、巻藁を数本引いていました。午後の術科試験は不思議に緊張が無く、前後の方に迷惑をかけない様

に息合いに注意する事しか考えていませんでした。

が、肌脱ぎの時に前の方の動作を追い越している事に気付き、「もう落ちた」と思いながら甲矢を引いたら、自分でも驚く程の軽い離れが出ている中。続く乙矢も同じ様に引いたら、またも軽い離れが出ている中でした。物見を返すと審査員は見えておらず、退場時の揖も見えていなかったのが「やっぱり落ちた」と思いました。

妻からは「二本とも鋭い離れだったよ。もしこれで駄目だったら体配かもね」と言われました。

その後は控室で暫く横になっていましたが、悪寒がしてきたので結果を待たずに帰りました。途中妻の携帯が鳴り、合格の報を受けました。

日頃の練習は休日のみ。「益々下手になっているのでは」という思いの一方で、「せめて1本1本を大事に引いていこう」と心掛けています。

最後に、練習にお付き合いして頂いている皆様、そして妻に感謝致します。

## 錬士の審査を受審して

瀬賀邦夫

平成26年11月9日、山梨で行なわれた錬士臨時中央審査で合格することができました。

審査当日は、朝5時半に出て、中央自動車道を甲府へ。一次審査通過者は暗くなった6時半頃に発表。発表と同時に慌ただしくなり、面接、二次審査の打合せ、持的射礼と続き、最終合格者発表は夜9時過ぎ。その中にまさか自分の受審番号があるとは、今でも信じられない思いです。実感のないまま、帰宅は深夜11時半頃でした。

この一日を振り返って、「称号者の先生方は、大変な緊張感、集中力、忍耐力でこの試練・高い壁を乗り越えて来られたすごい方々なんだ」とあらためて実感しました。

錬士といっても、私は先生方にはほど遠い存在ですが、一步でも近づけるよう努力していきたいと思っています。

私が弓道と初めて出会ったのは平成16年の初心者弓道教室で、今年（平成26年）でちょうど10年が経ちました。ここ3年間は、所沢市弓道

連盟でもお世話になり、多くの先生方、先輩方と巡り会い、ご指導いただける機会が出来、かけがえのないものになりました。

今回の合格も先生方、先輩方のご指導のおかげと心より感謝申し上げます。

先日の講習会では、「稽古では、意識がなければ結果につながらない」とご指摘を受けました。中りにこだわり漫然と無理な矢数をかけることも多く反省しています。

所沢市は、家内が生まれ育った所で、私にとっても第二の故郷になりました。これからも、所沢の皆様とともに励んでいきたいと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

## 矢取りに行こう

山口正彦

私は、弓道を還暦間近になってから転勤地の名古屋で始めましたが、動機といっても当時新聞で読んだ“定年後は夫婦で共通の趣味があると何かと良い”というような軽いものでした。

始めてから半年後に受けた無指定審査では、幸運にも初段の認許を頂き、開催される各種の競技大会にも追い追い参加するようになっていました。

名古屋は、三十三間堂の通し矢で勇名をはせた星野勘左衛門を輩出した土地柄でもあり、昔も今も弓道は大変盛んで名古屋市弓道連盟の下に多数の支部がありました。

ただ気楽な転勤族である私にも、競技会など事あるごとに支店間の緊張した競争がそれとなく感じられるような少し重い雰囲気がありました。

そんなある日・ある大会に参加することになり、3人立ちチームは1的Sちゃん（20代男性五段）2的私（50代初段）3的I先生（70代男性錬士六段）でした。

一手勝ち抜き競技が始まり、私は甲矢幕打ち、乙矢矢こぼれでした。真っ白になった頭で退場し弓架の前に座りながら“支部の皆さんに迷惑をかけてしまった。明日は道場に行って今日の失態を

謝り、そして退部届けを出そう”と云うような事を不安が駆け巡る中でクルクルと考えていました。

その時、射を終えたI先生が戻り私に「さあ矢取りに行こう」といつも通りの口調で声をかけてくれました。この声に弾かれたように立ち上がり先生の後を追い、拭き終えた矢束を抱えて戻りながら、“ああ、これからも弓道が出来るかもしれない”と思い始めていました。

私は、ついに弦を張ることのない弓を弓巻きに巻き納め、二度とはく事のない袴を井桁に結び終えた後、故I先生にお会いし“先生 平成15年の笠寺でのあの大会の時にこんなことがありましたね。私が平成26年12月に錬士を頂けたのも先生の、あの一言があったからです“とお話しし深く深く御礼を申し上げたいと考えています。

## 弓道入門

竹下正博

平成26年9月：宇都宮での関東地域連合審査で、お陰さまで五段の認許を頂きました。

日頃より、根気良く指導して下さる先生方、先輩、弓友の皆さん、そして万全の環境を提供して下さる所弓連の皆さんのお陰と感謝をしております。

審査当日は、2射場で、夫々160名強、私は受審番号24番で5立目の4番でした。審査という独特の雰囲気の中で、皆さん動作が非常にゆっくりで跪座が大変厳しかったのですが、何とか2本入って呉れました。射は自分なりに比較的満足の行く物でしたが、受審番号が若く初めての五段受審でしたので、どの様な評価が頂けるか半信半疑でしたが、幸運にも認許を頂く事が出来ました。

振り返って見ると、弓を始めたのは平成19年5月：66才から、初心者弓道教室を卒業して、その年の11月：熊谷で初段（乙矢的中）、翌年の5月：所沢で式段（甲矢的中）、ここまでは順調でしたが平成22年11月：熊谷で参段（皆中）に2年半、平成25年：日高で四段（皆中）に2年半と苦戦の連続、多くの時間と沢山の上納金を納めました。

少し気持ちにゆとりを持とうと1年半間を於いての五段受審で、思いがけなく上記の様な結果となりました。

因みに、今回の審査の評価は、体配に自信がなかったのも、「2本の的中」と「審査申込書の講習会受講歴欄を満杯に埋めていた事」が評価されたのではと勝手に思っています。

審査は何が起こるか分からないとよく言われますが、「受講」と「的中」が如何に大事かと言う事を実感した次第です。

弓のお付き合いをしている他道場の先生から五段合格の祝メールで「五段合格してからが[弓道]

を目指す[入門]を許されたのですよ」との言葉を頂きました。弓道の奥深さと難しさを感じる言葉ですが、あまり堅苦しく考えないで、年令・体力・気力等々と相談しながら弓道を目指したいと思います。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

## 誠を尽くす

松本裕子

11月23日 五段を頂きました。平成26年は2月に倒れた母の応援で帰省し、再び肩を痛めてしまいました。年に一度は受審する事に決めたので、結果は求めず受けることにしました。練習開始は6月。週に1～2日。1日10射迄とし、弱弓から始めました。9月からは、上がり症克服の為に射会や講習会に出席。いつも心臓バクバクです。日高では遅刻し、皆様にご迷惑をおかけして申し訳ありません。

諸先生のご指導、そして弓友の皆様の支えのお陰で審査の日を迎えられましたことを感謝しております。

審査は明治神宮至誠館。静寂な空気に包まれた暖かく美しい秋の日でした。直前に大前に変更になりショックで落ち込みましたが、「自分のリズムで出来る大前は、自分に向いている」と気持ちを切り替え、歩数をチェックし、並ぶ皆さんと調

整して臨みました。①誠を尽くす。②右目で的を見る（左が利き目）。③会を持つこと。

的音は2回しましたが、目が悪いので矢所は見えません。「誠を尽くす」と心の中で唱えながらの終始でした。躓をはずし震える手を見つめながら、終わったことを実感しました。

もっと矢数を増やし自分の射を求めたい思いは多く有りますが、自分の状態に合った矢数でコツコツ歩み続けることも「私の道」なのかなと考えます。これからも至誠と礼節の心で、一射一射を大切に精神修養を重ねます。

諸先生、先輩、弓友の皆様、今後とも宜しくお願い申し上げます

## 【競技部（スポーツ少年団支援部含む）】

### 《所弓連主催射会》

納射会（12月14日）（参加80名 武道館）

#### 《団体戦》

- 1位 長谷部元美 山下恵美 山田大介  
 2位 三由憲之 池内健治 平山夏子  
 3位 松本裕子 国友大裕 増田裕子  
 3位 山本雅子 長谷川昌史 上橋 宏

#### 《個人戦》

- 1位 山田大介 2位 藤田 良 3位 岩村優子  
 4位 関口二郎 5位 松寄恭子

元旦百射会（12月～1月1日）

参加総数27名 百射修了者18名

- 1位 下田 徹 86中  
 2位 山田大介 76中  
 3位 粕谷吉一 71中  
 4位 関口二郎 64中  
 5位 三好啓子 55中  
 6位 中村康代 55中  
 7位 澤田靖子 50中  
 8位 関口研二 44中  
 9位 中村徳海 44中  
 10位 元田郁男 43中

初射会（1月18日）

参加97名



（草賀先生の巻藁射礼）

#### 《金的賞》

天位 中西誠一 地位 山本雅子

#### 《扇的賞》

天位 齋藤柊菜 地位 小島理恵 人位 細川和子

武道祭（2月1日）

演武者8名、ボランティア2名及び会長、放送係、連絡係、手伝各1名の14名参加

5人（男性2人、藤田、廣瀬、女性3人、中村、澤田、奥富）による一手坐射、続いて男性3人（目黒、山口、渡邊）による立射礼を一つので行った。



（一つの立射礼）

演武終了後、無料体験教室が行われ、弓道に興味を持っている大勢の子供たちの参加があった。

月例射会（3月8日）

(近的49名、遠的雨天のため中止 市弓道場)

《近的》

(2段以下)

1位 山口信一 2位 中牧万優 3位 西澤智美

(3・4段)

1位 黒木智哉 2位 小島理恵 3位 黒木宝子

(5段以上)

1位 熊井紀一 2位 粕谷吉一 3位 永田欽一

♪～♪～ COFFEE・TIME ♪～♪～

平成27年3月8日(日)は、朝から冷たく細かな雨が間断なく降り続き気温も真冬並みになっていた。私は、神奈川県立武道館で開催された神奈川県・埼玉県弓道指導者親善射会に参加し行射を終えて観覧席に座っていた。

昨年末の審査を受審後、何故か弓道に対する気持ちも沈みがちで、この日も6射0中の惨憺たる結果も“今の調子では仕方がないし今日とはとにかく寒すぎる”と反省も後悔もなく、行われている演武もただ漫然と眺めていた。

ふと後ろの席で“10秒・・・今のは13秒、・・・今度は11秒”と声がしている。“〇〇先生も11秒”これで分かった、教士・範士の先生達の会の長さをカウントしている人がいた。

先生達の射は、矢渡などで見る機会もあったが五人立の演武を観るのは殆どなかった。

その日の埼玉県の最後の立で五人全員が10秒以上の会を保ち、かつ10射皆中を目の当たりにしたとき、全く次元の違う弓道があることを思い知らされた。

講習会で講師の先生から“今のは2秒半せめて4秒持ちなさい”といつも言われていたまずこの段階を超えていかなくてはと雨で益々渋滞し先行きの見えないR16の帰りの車の中で考えていた。

Mr. KaTaBaMi

## 《対外競技会》

全日本実業団弓道大会 (11月8・9日) 明治神宮

団体予選(産業別 市役所)

6位(澤田靖子 石川淳子 豊田佳隆)

女子個人

6位 澤田靖子

埼玉県武道弓道大会 (11月23日) 県武

中学生の部 個人 3位 青山恭子

一般男子の部個人 3位 中村徳海

西部支部納射会 (12月7日)

(所沢参加28名 武道館)

(3段以下)

入賞者なし

(4・5段)

1位 関口二郎 2位 藤田 良 3位 廣瀬雅孝

(称号者)

2位 粕谷吉一

埼玉連新年初射会 (1月11日) (参加20名 県武)

称号者部 3位 本橋民夫

西部支部初射会 (1月24日) (参加27名 武道館)

入賞者なし

西部支部総会射会 (3月1日) (参加26名 武道館)

1位 熊井紀一 3位 関口二郎 5位 小山和枝

神奈川県・埼玉県弓道指導者親善射会 (3月8日) (参加4名 神奈川県武)

入賞者なし

**全国勤労者弓道大会・埼玉県予選会（3月15日）**

（参加6名 県武）

予選通過チームなし

**秩父神社奉納 第57回埼玉県下武道（弓道）大会（4月29日）（申込み49名 秩父第一弓道場）**

中学生の部 入賞者なし

一般の部

団体 5位 所弓連M

黒木智哉 関口研二 関口二郎

個人 4位 藤田 良

**【スポーツ少年団支援部】**

（\*スポーツ少年団支援部の各種射会記録は競技部にも掲載しています。）

**所弓連納射会（12月14日 参加20名 武道館）****スポ少納射会**

（12月20日 参加26名 武道館）

**道場大掃除（12月21日 参加23名 市弓道場）****所弓連初射会（1月18日 参加23名 市弓道場）**

〔入賞〕 扇的 天位 齋藤 柊菜

所沢市スポ少交流大会（マラソン大会 2月15日  
19名参加 所沢航空記念公園）**所沢市スポーツ少年団 50周年記念式典**

所沢市のスポーツ少年団が創立50周年を迎え、2月28日ミューズにて記念式典が開催されました。

永年指導に尽力された方々が表彰され、弓道連盟では、スポーツ少年団指導員の松寄昇先生が功労賞、松寄恭子先生・石川淳子先生・増田裕子先生が奨励賞を受賞しました。

いつもの皆様のご協力に深く感謝いたします。

**所沢市スポーツ少年団功労賞（10年以上指導貢献した有資格指導者）**

松寄 昇

**所沢市スポーツ少年団奨励賞（スポーツ少年団に尽力した指導者及び関係者）**

石川淳子 増田裕子 松寄恭子



（松寄恭子先生・松寄 昇先生・増田裕子先生）

**所弓連3月度月例射会（3月8日 参加12名 市弓道場）**

近的 二段以下の部

2位 中牧 万優 3位 西澤 智美（いずれも8射4中）

**卒団祝射会（3月21日 武道館）**

6名卒団（4名は高校にて弓道部活動希望）

**スポーツ少年団支援部からのお願い**

いつもスポ少をご支援いただき、ありがとうございます。おかげ様で5月には13期生を迎えます。

団員数約30名以上となる見込みで、弓具が不足しております。不要となった弓具がありましたら、ぜひ!!スポ少にご寄附下さい!!

不足しているのは、グラス弓 並寸11kg以下、伸寸12kg以下。

ジュラ矢 羽が傷んでいても結構です。

ご寄附下さる方! スポ少支援部員にお声かけ下さい。

よろしくお願いたします。



(矢 渡)

年が改まって初めての弦友会の射会とあって着物姿の会員も多く見受けられ、華やかな雰囲気の中でお祝いの射会が和やかに行われました。

午後から会場を移し、新装なった割烹“ちとせ”でお祝いの会を挙げる。女性会員から花束を贈られた春田先生は「まだ、90歳と言われても、自分ではそんな気がしない。これからも早朝稽古を続け、出来るだけ体が動けるうちは元気に弓を引いてゆきたい。胸を広げて、背筋を伸ばす動作は健康に良い運動である。ゴルフや柔道、剣道と違って、相手がいなくても的さえあれば出来るし、調子が悪ければ少し、良ければそれなりに調節が利く運動である。精神的にも優れたスポーツであり皆さん射品、射格を目指し日々稽古に勤しんでおられるが、私も引き続き頑張っってゆきたい」と挨拶がありました。

## 【弦友会】

### 春田孝正先生卒寿のお祝い

小林康則

弦友会(永田欽一会長)では、2月12日、会員ら28名が参加して西新井町の熊野神社市営弓道場で春田孝正錬士の卒寿のお祝い射会を開催しました。



(春田先生を囲んでの記念写真)

## ∞ 投 稿 (2) ∞

### 感謝の気持ちをこめて

安江仁美

まず永田会長から「春田先生は今年1月1日、めでたく90歳を迎えられました。一日も欠かさず道場に通り弓道に取り組んでおられます。会員は人生のパワーを先生からいただき、そして私たちの主治医であります。これからは私たちの主治医をお願いし、元気で弓を引いていただきたい。

今回の道場建て替えに際し種々ご配慮をいただいたことに対しても謝意を申し上げたい」などとあいさつしました。春田先生の矢渡しが行われ、永田会長と山口正彦錬士が介添えをつとめました。

熊谷審査の報告をいたします。四段審査も回数を重ね、たくさんの課題を抱えていました。残身での弓手・妻手の位置の問題、離れののち弓が手の中でストーンと何センチも落下、妻手引きの傾向……と数々の課題。となると弓手角見は?天紋筋は?小指はしまっているか?さて妻手は手首を使っていないか?肘の位置は?上腕と前腕の張りが保てる角度は?拇指の向きは?等々ひとつを強く意識すると他との兼ね合いが悪くなり、その都度弓手と妻手のバランス! たて線! 胸の中筋! …と



日々確認すること満載です。

審査前日もあれこれ意識していたらどんどん迷いが生じ、さぐりながら弓を引いている状態でした。不安いっぱいだった私に「大丈夫だから、のびのびと引いてごらん」との先生のお言葉が沁みました。

当日は弱い雨が降ったり止んだりの天候でしたが、“今できる最善を”と思えば雨が止んだ隙に納得がいくまで巻藁を独占。

審査では第二控えで休憩待ちの辛いタイミングでしたが、周囲の方々と静かに談笑したり、体をほぐしたりと程よいフレッシュとなりました。

さて甲矢です。三時方向にぬけてしまいました。ところが不思議と後悔やあせりよりも“さあ乙矢でやるだけのことをやろう”と落ち着いていることができました。乙矢では“バランス良く引き分けて、最後まで伸びて伸びて……”とそのことだけを意識していました。すると矢が的に中った音で離れたことに気付いたような感覚で、なんとか片矢の結果になりました。

マイペースながら弓を続けてよかった、本当にそう思います。諸先生の含蓄のあるお言葉、弓友と道場で過ごす時間、審査での緊張感……どれも日常生活では得られないかけがえのない宝物です。

これからもこつこつこつこつ弓の道を歩んでいきます。どうぞよろしくお願ひいたします！！

## なんとか二段審査合格しました

日野義弘

さる10月5日の秩父第一弓道場での二段審査で、やっとのことで合格させて頂きました。これも偏に草賀先生、上橋先生始め多くの先生方のご指導の賜物と深く感謝申し上げるしだいです。まさに不肖の弟子であり、手取り足取りのご指導を頂いても同じ誤りを度々繰り返すという状態で我ながら呆れはてます。

門前の小僧経を読むがごとしで、繰り返し根気よくご指導頂いたことで、射法八節の理論を深く理解しきれてなくても、徐々に体が反応し、手先だけで引いていたものが、全身で大きく引くこと

ができるようになりました。つい力が入り、弓を固く握りしめていた手の内や取り懸けの握りの力みも自然に柔らかく抜けるようになりました。

また一番の悩みであった大三や引き分けも、両肩や肘で引くことで、矢先が上がらず、口割も下がらぬことを懇切丁寧にご指導頂いたので、当日は不安も解消され、安心して審査に臨むことができました。

当日の射はご指導頂いたとおり、気持ちを落ち着かせ、諸動作を全て確認し、慌てずゆっくり引き分けたことで、甲矢が的中し中心部近くに中りました。しかしながら、乙矢も的中させようといふ欲がでたため余計な力が加わり、的の2時方向の脇に入ってしまった。まさに当てっけが出てはダメですね。

これまでは、射法八節をお題目のように唱え、暗記しても理解不足で射を行なっていたため、詰合い、伸び合いが不完全となり、左右の引分けもバランスが崩れ、縦線・横線が保たれず、胸が開けないことが度々ありましたが審査が近づくに従い、真剣さが加わり練習回数も増やせたことで、少しずつ悩みも解消することができました。

長らく先生方のご指導どおり遣らず、勝手な解釈をするなどしたため、頑固4兄弟と言われ続けましたが、今後は心を入れ替え頑固4兄弟は早々に解散したいと思います。

これからも諸先生方の厳しいご指導を頂き、一步一步と歩を進め、射法八節の理論を解し、射技を習得しながら弓道に邁進して参りたいと存じます。何卒ご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。

## 大雪の次は大雨

國友大裕

10月5日秩父第一弓道場 審査にて、式段に合格しました。日頃から熱心にご指導ご鞭撻を頂いている、諸先生や諸先輩方に心から感謝致します。

前回の大雪審査に続き、今回は大雨審査?!でした。心と技の余裕がなく、可能な限り弓道に集中したい一日なのに、またもや早朝から天気予報や

交通状況に気を取られる事態となり、自分の引きの弱さを再認識させられました。しかし、こんな悪天候用に温めておいた弓の雨袋を遂に登場させられて、ほんの少しうれしくもありました。相変わらず実技はアタマ真っ白で、強い雨音と湿って滑りが悪い床の感触だけが妙に記憶に残り、自分の出来は残念ながら反省出来ておりません。

弓道教室で初めて弓と矢に触れてから1年と10ヶ月が経ちました。毎週1回だけですが、ここまでなんとか続けることが出来ています。私にとって新しく奥深い趣味を獲得できて、ちょっと大げさですが人生の質を少し向上させたような充実感があります。先生方や諸先輩方の温かいご指導と雑談、同期の皆様との弓道を通じたお酒付の交流、そして充実した設備、とても恵まれたこれら環境で弓道が出来ることへの感謝を忘れずに今後とも精進したいと思います。

## 式段合格記

松村峰裕

初段に合格した上尾では大雪の中の受審でしたが、今回は何と台風接近に伴う大雨の中の審査でした。秩父の審査はちょうど1年前に一回目の初段の試験を受けた場所であり、まったく初めてというわけではなかったのですが、緊張しました。

今回は二的でありましたが、待ち時間がとても長く感じられ手にかいた汗を何度も拭いながら順番を待っていました。

とうとう自分の番になり入場し射位へ。そして甲矢を放ったところ的手前で矢がバウンドしど真ん中に刺さりました。いい音がしたのですが、当然外れでしかも摺り矢ということで次の審査である熊谷行きを覚悟いたしました。

せめて乙矢だけでもと気を取り直し、今度は思いっきり飛ばして審査員の先生に当たらなくても良い射を見ていただこうと開き直りました。結果無事に安土に刺さり実技は終了しました。

午後はわずかな望みを捨てず筆記試験を受け、いよいよ合格発表へ。駄目だとは思っていたものの発表までの時間が異様に長く感じられました。

結果が掲示されて、よく見てみると自分の名前の所に「合」のスタンプがあり、奇跡が起きたと思いました。

一年の間に初段、式段と合格できたのは渡邊先生をはじめとした先生方、先輩方の指導と、仲間がいてくれたおかげだと思います。改めて感謝する次第です。

2015年は三段に合格できるように努力したいと思います。

## 式段昇段審査にて

杉崎竜也

平成26年10月5日の秩父審査で式段をいただてきました。前回の5月の所沢での審査では、自分の力を発揮することができず不合格でした。

今思えば自分自身で「先生も取れるって言ってくれたし取れる。」と慢心していたのかもしれませんが。発表のときに自分の名前の横に合格の文字がなくて愕然としたのを覚えています。

それからは自分自身で「二段なんかはまったく届いていない、努力して次こそは認めてもらう」と練習をしてきました。

そして当日、射場に入る前は緊張で体が震え、吐き気すら感じていました。ですが射場に立った瞬間に体の震えは止まり、射に集中することができました。射については自分でできる最も良い射ができたのではないかと感じました。学科審査も終わり、発表を待つ時間がものすごく長く感じて、落ち着きませんでした。

発表のとき、自分の名前の隣に「合格」の文字が見えて思わずガッツポーズ！弓道を始めてよかったなと感じています。

学校の部活として始めた弓道を今は「生涯続けたい」と思っています。更なる向上を目指し、日々精進して自分の射を磨いていきたいと思いません。

もっと弓道を知りたくなり、参段への挑戦も考えています。今後ともご指導お願いいたします。

## 初段受審の感想

新井 寛子

2013年6月の初心者教室を終えて、2回目の挑戦で無事に初段に合格することが出来ました。これもひとえに、丁寧にご指導下さった諸先生方、弓道のみならず様々な諸事を親切に教えて下さった諸先輩方、一緒に励まし合って審査に臨んだ同期や仲間の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

一度目の審査は、2014年6月の大宮会場で受審しましたが、独特の雰囲気にも飲まれ、また苦手の大前ということもあり、緊張のあまり、甲矢を「会」の状態に失ってしまい、頭の中が真っ白になったことを今でもよく覚えています。そんなにも緊張するという経験が今までなかったのに、自分自身に驚き、また情けない気持ちになりましたが、2度目の10月の秩父では、その経験があったからこそ、そこまでは緊張せずに、比較的平常心で臨むことができました。また、秩父は所弓連から一緒に受審する方が多かったのも大変心強く励みになりました。

初心者教室を終えたばかりの頃は、審査を受けるという気はなく、ただ細く長く続けられれば良いと思っていましたが、しばらくすると、「せめて初段は合格したい」という欲が出てきました。

すると、ただ漫然と練習していた時よりも、細かい部分まで気を付けて一つ一つの射を丁寧に行うようになりました。審査は、射や体配の修練だけでなく、緊張感に打ち勝つという難題がありますが、それだけ合格した後の充実感が大きく、今は挑戦してよかったと思っています。

まだスタートラインに立ったばかりですが、一歩一歩精進していきたいと思っています。

## 初段審査

### ～教本からの学び・得たもの～

長谷部元美

まずはじめに、ご指導くださいました先生方、アドバイスを下さいました諸先輩方に深く御礼申し上げます。

おそらく、今までの初心者の方たちよりも長い

時間をかけていただきました初段という段位には道のりの過程で、初回で頂いていた自分がいるとすれば、それより得るものがあったと思います。

ひとつは筆記で毎回出題される「射法八節」です。「3行書ければ大丈夫」と言われつつも、物覚えが悪い私でも回を重ねるごとに文章がだんだん頭に入り、一文一文の理解が深まってきます。

字づらで覚えていたものがやがて自身の射と合わせて見えるようになっていました。例えば、いつも先生から「小さい！もっと大きく引いて」と指導を受ける部分は教本でいうと「会」の「詰め合い」、さらに「横線の構成」のことで左右均等に張り合うことであったり、胸の中筋より左右に胸を開くように・・・であったり、その部分ができていないから小さくなってしまふのだと気付きました。

次に、じゃあ、さらにそれをどうして修正すればよいのか、です。指導の内容を頭で理解していても身体で表現できない、何となくしかできない状態です。

そこで、「弓道教本」第一巻射法篇の文章から自分なりのイメージを作ることになりました。先ほどの「胸を開く」は胸骨の中心に縦にメリメリとヒビが入っていく感じ。そこまで押し手と右肘を張りあう。私の中では、このようなイメージです。「今は良く引けている」と言って頂けるときは、先生の教え、教本、自身のイメージが合致したときです。

ひとつ気にすると違うひとつがおろそかになり、わかったからといっていつでもできるとは限りませんが、教本のそんなひとつひとつを頭と身体で理解していくことが正しい射につながり、次の審査に向けて段位にふさわしい射ができていくのだと思うようになりました。

もうひとつは、恥ずかしながら実は教本は射法八節以外はじっくり読むことがありませんでしたが、さらに魅力を感じさせる発見があったことです。射法八節のこの部分だけでも素晴らしい内容であると感じましたが、今回、投稿させていただくにあたり巻頭巻末を読んでみました。

江戸中期に作られた「訓」が大正、明治、昭和に受け継がれ、戦後には教本として刊行され、現在までの改訂は、方針、内容の変革ではないと書かれています。

埼玉の和紙技術がユネスコ無形文化遺産登録されたとの記事がありましたが、シンプルなのに美しい曲線を持つ弓、弓と矢と身体が一体になった会の美しいかたち、この何百年間変わることはない精神や射法は文化遺産に匹敵するくらいのものであると自身の中で感じています。

このような弓道に日々触れられて、一緒に練習する仲間にも恵まれて幸せを感じる人生が得られたこと、それが初段審査を通して得られたものです。

今後とも、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

## 初恋の人との再会

坂川 隆人

今回、初段位の認定を頂き、大変有り難く思っております。

入門以来、射法、体配等を基本から懇切に教えて頂いた先生方、また、体配の練習にお付き合いをさせて頂きつつ、その裏技やコツ等々を親身になって教えて頂いた先輩方に深く感謝申し上げます。

さて、今回初めての投稿ですので、弓道との出会いのことなどを書かせて頂きます。

私が弓を初めて手にしたのは、高校入学と同時に弓道部に入部した時ですから、丁度五十年前になります。ところが、入部したのは良いのですが、その年は新入部員の数が大変多かったので、練習に行っても型を繰り返すばかり、巻き藁も順番待ち、的前には体験的に一、二回立っただけ、という状況でしたので急速に興味を失い、すぐに退部してしまいました。せっかくの弓道との出会いだったのですが、まるで、はかない初恋のようなものでした。

その後、弓道から全く離れていたわけではなく、弓道はちょっと気になる存在として、私の心の片隅に居続けていました。初恋の人がなんとなく忘

れられなくなっていたのです。

そうこうしているうちに、何十年もの年月が流れ、初恋のことも忘れかけ、真面目に生活をしていたある日（あとで調べると、二〇〇八年のこと）、その人の姿を垣間見る出来事がありました。

なんとなくテレビを見てみると、ニコラス・ペタスという格闘家が、日本の武道を世界に紹介するという、「サムライ・スピリットを探る」というタイトルの番組をやっており、その日は丁度「弓道」が採り上げられておりました。（ご覧になった方も多いと思います。）

見てみると、その番組のなかでちょっと衝撃的な発言がありました。

それは、岡崎廣志（八段）という方がインタビューに答えて、「（的に）中てようとする卑しさが見えたらだめ。」という趣旨の発言をされたのでした。弓は、中てることを目的にした道具のはずなのですが、中てようとするのは「卑しい」と言う訳です。

言葉通りに解釈すればこれは明らかな矛盾なのですが、私はその番組を見ながら、そんなことを強調する弓道に、強く惹かれるものを感じました。初恋の思い出がよみがえった訳です。

ただ、その時は、直ぐに弓道場に急行することはありませんでした。

それから数年後のある日のこと、その頃に始めた航空公園での朝の散歩の帰りに、熊野神社の弓道場の存在に気づき、これがあの初恋の思い出にしっかりと結びついたのでした。

私は（元々、大変内気で気が弱いものですから）、直ぐに門を叩くことが出来ず、しばらくの間は道場の金網越しに、胡散くさいおじさんとして、早朝の練習を眺める日が続きましたが、ついに昨年のある日、意を決して道場の門を叩き五十年來の初恋の人に再会したのでした。

そしてこの度、初段の認定を頂き、更なる高みに向けて練習に励んでいる訳ですが、的前ではいつも、岡崎八段が話されていた「中てようとする卑しい気持ち」満々で立ち続けておまして、弓道の難しさと、同時にその面白さを感じていると

ころです。

こうして、五十年ぶりに初恋の人に再会し、お付き合いを始めた訳ですが、この方は大変に奥の深い人であることが分かりまして、私は、どうやら恋の虜になってしまったようです。

さて、この恋、果たしてこの先どう展開するのでしょうか。

## ∞ 会長月誌 ∞

11月15日

弓道教室終了

・参加者11名、指導者延56名

11月19日

所沢シティマラソン第2回実行委員会

・大会概要、予算案

11月22日

県理事会

・27年度行事予定

11月29日

武道館27年度使用予定提出

・県、支部、所沢分

12月 6日

埼弓連臨時評議委員会

・会費値上げの件（平成27年度より一般1千円値上げ）

12月 7日

シティマラソン本部役員会

青少年三道大会反省会

1月16日

神社道場建て替え工事の見積り4社提出

・いずれも内容不調のため不採用

1月19日

新たに神社道場建て替え工事の見積り2社依頼

2月 4日

埼弓連IT事務所会議

所沢市体育協会役員会

2月 5日

シティマラソン総務委員会（欠）

2月16日

所沢市体育協会競技団体部会

所沢市体育協会理事会

・体育協会賞、スポーツ大賞受賞者の検討

2月17日

シティマラソン実行委員会

・第25回大会の反省、決算

2月21日

埼弓連理事会

・27年度計画・予算

・役員改選（会長候補）

2月25日

神社道場建替入札依頼予定2社から見積受領

3月25日

市営繕課との打ち合わせ

・神社道場解体条件提示

・市から建築指導課にも相談してはとの助言有

3月28日

氏子会からの要請

理事会（兼部長会）

・氏子会宛の回答書作成の了解を得る

3月31日

市建設指導課との打ち合わせ

・射場は建替え、安土は屋根修理、矢取道解体

## ∞ お悔やみ ∞

弓友 森谷義弘君の死を悼む

永田欣一

君を最後に見舞ったのは今年の1月11日でした。それから10日後に君は亡くなりました。あれほど元気で明るく皆に好かれた君が突然にいなくなるなんて現実だと認識するまでに相当時間が

かかりそうです。

アウトドアが好きで、ゴルフ、スキー、散策、また海外旅行にもよく出かけていましたね。

亡くなる2カ月前の11月にもニュージーランドへ旅行し帰国後“ふくらはぎ”が膨らみ苦しんでいました。飛行機の乗りすぎでエコノミー症候群じゃないのかと冷やかされていましたが、それが大病の兆候だった（肺が侵されていた）と後から奥様からうかがいました。どうしてももう少し早くわからなかったのかと残念でなりません。

君は中々器用な人でよく弓道の小道具を作ってくれました。私の周りにも森谷さんに作ってもらったと重宝している人が沢山います。

君は学校の先生をしていただいただけに教えるのは上手でしたが、教わるほうはそうでもなかったようです。弓道で諸先生方の指導を受けていましたが、すぐに元の自分流に戻っていました。その頑固さに「頑固三兄弟（森谷、元田、龍池の三君）」とも言われていました。命名者は甲斐久歳先生で本人達はその命名に納得していたようです。

まだまだ森谷君の思い出話は尽きませんが、心よりご冥福を祈ってここで終わりにします。

## ∞ 編集後記 ∞

所弓連は昨年10月2日にNPO法人として新たに発足した。

単なる仲良し団体から法人となった意義は大変に大きく、各種公的・私的手続きなどが連盟の名称で行えるし、何より法人として長く存在し続ける意思を内外に表明できた。

一方、毎期の決算内容や活動計画が全国津々浦々に公表されることとなり直接の批判や指摘はないにしても社会の一員としての自覚も忘れてはならない。

また、法人化したことで実現が可能となった「神社道場の建て替え」は、会員の一人一人が一回でも多く道場に足を運ぶ事、そして今まで以上に月例射会などの行事に参加する事によってのみなし遂げることが出来るのではないだろうか。

この当面の課題達成に王道はない。

### 編集委員

飯島稔凱 甲斐久歳 小林康則  
山口正彦 山口ひろ子

所沢市弓道連盟会報誌 所弓便 第15号

発行日 平成27年5月15日

発行者 NPO法人 所沢市弓道連盟  
会長 新家 透